

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 すみれ )

事業所番号	0672300381		
法人名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームかほく		
所在地	〒999-3511 山形県西村山郡河北町谷地字砂田207-1		
自己評価作成日	令和 6年 2月 8日	開設年月日	平成 16年 7月 12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちは地域の中で、その人らしく安心して、楽しく笑顔で生活できる、温かみのあるホームを目指します」というグループホームかほくの理念に基づき、よつば棟では「笑顔たやさず、和気あいあいとみんなで安らぐよつば」を合言葉に入居者様一人ひとりがその人らしく生活していけるように心がけ、日々の生活に張り生きがいをもってもらえる様に日々の業務を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6年 3月 14日	評価結果決定日	令和 6年 4月 3日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長く続いたコロナ感染症も5類に移行し社会の動きは活発になってきましたが、インフルエンザも加わった感染の報道もあり、家族等の面会条件緩和に対する要望への対応に悩みながら感染対策と家族の絆の両立を図っています。高齢の利用者も多く体力や認知能力の低下も見られるようになり、日々の活動も全員参加が難しくなっていますが、無理強いせず一人ひとりの能力やペースに合わせた生活ができるように支援しています。今年度は3名の利用者を看取り、特別なことではないことを実感しターミナルケアの研修を通し技術や心構えを再確認しています。多くの利用者によって最後まで穏やかに過ごしてもらいたいと力を尽くしている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づいて、事業所やユニット単位でケアの目標や到達点を毎月の会議等で情報共有している。また、事業所全体の介護も毎月実施し、情報共有している。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス5類に移行したことで、さまざまなイベントが行われてきている。地域のお祭りにおいても、地域住民の方が来所してくれ、山車や踊りを披露してくれた。また、直接的な交流ではないが、外出の機会も少しずつ設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の代表者の方や、ご家族代表の方と実際の活動様子を紹介しながら取り組みをお伝えしている。また、問い合わせや見学時に困りごとなどの相談も受け付けている。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議実施している。現状や取り組みを紹介しご意見を頂戴している。頂いたご意見を今後のサービス向上に努めている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にご参加を頂き、現状報告と取り組みについてお伝えしている。また、介護保険や介護サービスにおいて不明点があれば、連絡を密に取り情報の共有に努めている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	年2回の研修で身体拘束についての理解を深めている。また、毎月の全体の会議で身体拘束廃止についての状況確認と不適切なケアの実施がないよう意見交換している。	「身体拘束等の適正化のための指針」の下、全体会議の中で該当する行為の有無について一人ひとりが確認事項のチェックシートで振り返っている。運営推進会議で事故等の報告を行い、利用者の自由を確保しながら怪我に繋がらないように工夫した対策も併せて報告し、抑圧のない暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修で虐待防止に対する理解を深めている。また、様々な虐待事例ケースを取り上げ、虐待防止に向けての意見交換や虐待発見時の通報義務など確認している。	社会問題となった虐待の事例を取り上げたり、オンライン研修などを利用して法令順守と徹底防止を図っている。職員の疲労やストレスに気を配り、言葉や声のトーンが気になる場合は互いに注意し合うなど、リスク要因を排除している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないため、外部研修会に参加し理解を深めている。なかなか、伝達研修も出来ていないため、今後は全体へ周知出来るような環境作りも必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時書面を基に説明を行っている。また、随時不明点や不安等確認しながら丁寧な説明を心がけている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は対面や窓越しの面会と感染症流行時期に合わせた面会をお願いしていた。お一人お一人に現状が分かるよう、毎月のお便りや電話・面会時に状況をお伝えし、意見や要望を確認している。また、玄関に意見箱も設置継続している。	家族等の面会や預り金持参時、また電話で暮らしの様子を伝えて意見や要望を聞き、面会条件緩和の要望には感染状況を見て対応している。毎月発行の広報紙「どんがだより」には生活の様子を撮った写真や担当者からの所感を載せ、家族の安心に繋げている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で意見や提案を確認し施設運営に反映している。また、管理者は月1回ブロック長を通じて代表者へ意見や提案を届けるようにしている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状況や体調面を定期的に確認し、意向の確認も行っている。また、介護支援専門員などの資格取得にむけたサポートを積極的に行っている。	管理者は健康診断結果や医師会の健康相談などを通し、職員の心身の健康状態を把握している。休暇取得などの際は特定の職員に負荷がかからないよう互いに融通し合い、忙しい中でも協力して生き生き働ける職場環境づくりに努めている。	
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修会で様々なテーマについて勉強会を開催する他、定期的に外部研修会にも参加し新しい知識を取り入れるようにしている。	外部研修は内容や経験を考慮して派遣し、伝達研修で共有している。年間予定を立て計画的に行われる内部研修では、オンライン研修や法人内他事業所の資料を共有して行う場合もあり、積極的に最新情報を取り入れ知識や技術を学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修会に参加した際に意見交流等積極的に行っている。また、法人内で委員会や研修会を開催し、他事業所の職員同士のネットワークやサービスの質強化を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を基にご本人の意向を十分に汲み取り、安心してサービスを受けることが出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、ご家族の不安や疑問、要望などを伺っている。それに対してしっかりと向き合い対応する事で安心感を抱ける良好な関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居利用開始時アセスメントを十分に行っている。ご家族やご本人の希望に寄り添った支援ができるようにニーズを見極められるように努めている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、テーブル拭きなど日常の家事を一緒にやっている。互いに支え合える関係を構築出来るよう努めている。	日々の会話で聞いた食べたいものなどの要望に応じて喜ばれ、机拭きや床掃除・ぼた餅づくりなどで活躍してもらい感謝を伝えている。眠れない夜に職員と二人だけで過ごす中「いつもありがとう」の言葉が聞かれ、互いに気遣う場面も見られている。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係を大切にしている。お便りや面会時などで近況報告など行い、家庭での様子など伺い助言を頂くなど情報の共有に努めている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は、職員介入し窓越しでの対応継続。昔慣れ親しんだ友人や趣味嗜好の話題提供し関係が途切れないように支援している。	今年度は4年ぶりに祭りが復活し子供神輿や山車も訪れ、慣れ親しんだ光景に触れる機会となっている。訪問理容を心待ちにする方や家族の協力で行きつけの美容院で整髪する方もおり、馴染みの関係が途絶えないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の行事や全員で行う軽体操を取り入れ、毎日の交流の機会となっている。一人ひとりに寄り添い孤立することがないように声掛けし、入所者同士の橋渡しや緩和剤になれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気兼ねなく相談できる窓口になれるよう努めている。長期入院などで契約終了した場合でもその後のサービス利用の再開や他のサービス利用についての情報提供などを行い相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から本人の思いや希望、表情や行動を観察し担当職員が主となり意向確認している。気付いた点は職員間で情報共有し、本人の意向に沿った生活が出来る様支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や趣味、嗜好などを詳述いただいたり、ご家族への聞き取りなどを行い、入居者の情報把握し、良いケアに繋がるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日々の暮らしを観察し記録に残し、それを次勤務者は閲覧する。また職員間で申し送りをしっかり行い情報の共有に努めた。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングやケース会議にて現在の状況を話し合い必要に応じて介護計画の見直しを行っている。それを基に介護計画書を作成し、本人・家族にも説明のうえ同意して頂いている。	脚力が落ちている方でも「歩きたい」など、本人の思いを大事にして意見を出し合い安全に目標達成できる方法を試し、サービス内容を評価して継続や変更などの検討をしている。家族等には面会時や電話で説明して要望を聞き、家族の理想と現実をすり合わせ現状維持できるように計画作成している。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきでも日々の様子を記録し、個々に合わせたケアを行う為に、申し送りや会議等で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケア内容は介護ソフトシステムを利用してタブレットに記録し、業務日誌にも書き込み、些細な変化も見逃さず全職員で共有している。記録内容は支援の評価に活かしたりカンファレンス(検討会)で話し合われるなど、介護計画の見直しに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様からの要望は事業所で解決できるものは可能な限り対応しているが、外部に関わる事については、ご家族様協力のもと可能な限り支援を行っている。インフォーマルなサービスも取り入れて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染5類移行に伴い行事が再開され、地域の方々と連携し屋台等の巡演を楽しむことが出来るよう支援した。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族様が希望する医療機関で受診できる体制を整えている。受診時には書面等で日頃の様子をお伝えしている。また、ご本人様の体調やご家族様の希望により往診対応を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同事業所内の訪問看護師にご利用者様の状況を伝え、相談し適切な看護を受けられるように支援している。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	緊急の医療機関が近くにあるため、入院が必要な場合にはスムーズに対応することが出来る。医師やご家族様と連携、情報の共有を行いながら、安心して治療が出来るように対応している。	入院時は病院に介護情報を提供し、家族と共に病状や退院に向けた説明を受けている。退院の見込みがあればホームでの受け入れを柔軟に対応し(基本は2週間)、難しい場合は意向によって同法人他施設の紹介なども行い、速やかに次の生活に移行できるように配慮している。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の説明を行い、同意を得ている。可能な限り当事業所での生活出来るよう、その都度ご家族様や医師と十分に話し合いを行いながら対応している。	重度化した場合の指針には緊急時の対応や事業所では医療的対応ができないこと、看取り支援についてなどが明記されている。状態変化に応じて医師から家族等に説明があり、意向を聞いて今後の方針を話し合いながらできる限りの支援に取り組み、今期は3名の方をホームで見送っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変や事故発生時に備え、定期的には心肺蘇生法やAEDの使い方について研修を行っている。今年度は内部研修と消防署より講師を招きAEDの使い方について研修を行ってもらった。		/	
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災通報訓練を実施している。災害時に備えて食料の備蓄の確認、ハザードマップの把握を行い災害時に備えている。地域の方々との連携はまだ十分とは言えないが、今回の避難訓練の際に電話連絡だけではあるが協力を依頼し協力体制作りを行っている。		11月に夜間想定での火災時避難訓練を実施し、火事ぶれからの一連の流れを確認して最後には全員で水消火器を使った消火訓練も行っている。3月には地震対応と連絡網訓練も行い、3日分の食事の備蓄から1日分を消化し新しく補充(定期的)にして災害時に備えている。	利用者も避難時は車椅子対応の方が多くことや新しく入居した方、職員の異動など状況は変化することが考えられる。訓練後は参加者からの意見や感想、課題などを聞き取って話し合い、記録に残し、災害時に活かされることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように言葉遣いや対応を行っている。		利用者の訴えや行動は否定せず「どうしましたか」など声掛けを工夫して、人格を尊重した対応を心掛けている。羞恥心が伴う入浴や排泄時には1対1の個別対応でプライバシーに配慮し、情報を共有しながら連携してケアにあたり利用者の気持ちに寄り添った接遇に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思を伝えられる方とそうでない方がおり、出来るだけ関りや声掛けを多く持つように努め、本人の思いや希望に沿った支援ができるように働きかけている。		/	
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを把握し、本人のペースを保てるよう、どのように暮らしたいのか確認しながら支援をしている。		利用者の生活環境や習慣、その時の気分などに配慮し、食事時間や入浴なども無理強いせず希望に沿えるよう柔軟に対応している。また自己決定できるように「どっちがいいですか」と問いかけ、本人の意思を尊重した支援に取り組んでいる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みや希望に合わせた衣類を着ていただいている。髪型も本人様より希望をお聞きし出張で来てくれる理容師さんより散髪してもらっている。		/	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに合わせた食事を提供している。行事毎にケーキやお寿司などを提供したり、ぼたもちなどを一緒に手作りしている。		食事はご飯と汁物以外は真空パックの配食サービスを利用して、利用者に合わせて食形態で提供している。毎月24日は内陸8事業所輪番制で選んだメニューが登場し、行事企画に合わせて出前寿司や屋台を模した品々、赤飯などバラエティーに富んだ内容で喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食形態で食事を提供している。水分は本人の好むものを飲んで頂いたりして、水分量を確保している。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに合わせた口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。自力でのケアが難しい方は一部介助を行って対応している。	毎食後声掛けして、自室の洗面台に行って自分で歯磨きする方や準備などのサポートでできる方、ホールで全介助の方など個別に対応している。月1回歯科医と歯科衛生士の訪問があり、治療や口腔マッサージ、うがいの練習などを受け、口腔衛生管理に努めている。	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄を行う時間や、水分量などを把握し、利用者様に合わせた時間でトイレ誘導を行っている。職員間でパターンを共有し、対応出来るようにしている。	24時間の排泄チェック表は職員間ですぐ共有できるように紙ベースでも作成し、時間を見て声掛け誘導している。カンファレンスで排泄用品を検討し、時間帯でパットの大きさを変えたり、夜間のみオムツにしたり、個別対応で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操とリハビリ体操、また午後レクの間も体操を取り入れ運動不足で便秘にならないよう努めている。また食事で野菜類を残さないよう声掛けし、状況に応じて下剤を使用している。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	季節や体調に合わせた着替えを用意し、湯温を適切に保てるよう努めている。また入浴剤などを使用しリラックスできるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	マットレスの硬さや体位交換など必要に応じて対応している。また清潔を保てるようリネン類の交換は曜日で交換するようにしている。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いのないようダブルチェックし、本人の前で名前を読み上げ飲み残しや落葉のないよう支援している。新しい薬になった時など変化を観察している。	職員は薬剤情報書で薬の内容を理解している。服用時に飲み落としなどがあつた場合は家族等や医師に報告し、事故報告にあげて対策を強化すると共に、薬の変更時も職員間で情報を共有して状態変化を注視している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせて支援する場面を提供している。その中で、家事作業や掃除等役割の提供や、ご家族からの嗜好品の差し入れ、毎月のレク等で楽しんで頂けるよう支援している。</p>		
49		<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>昨年に続き新型コロナウイルス感染症の予防のため基本的に外出は必要最低限に控えている状況である。密にならないような状況でドライブなどを行った。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人管理が難しいため、ホームでお金をお預かりしている。購入したいものがあれば本人より希望を聞き、必要なものがあれば職員が購入し対応している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人やご家族の希望があれば対応している。届いた手紙はご本人に渡し、読めない方には読んで聞かせるなどの対応をしている。家族や親戚の方との電話対応も援助し対応している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日掃除を行い清潔に保てるように努めている。季節に応じた飾り付けや写真を飾り、居心地の良い空間づくりを心掛けている。</p>	<p>日中はほとんどの方がホールに集まり、ラジオ体操やリハビリ体操、余暇時間は各々好きな事をして過ごしている。ユニットごと季節に合わせた飾り付けをして、団子木作りや獅子舞で健康祈願するなど時節ならではの雰囲気味わっている。また換気や清掃、空気清浄機や加湿器の設置などで感染症対策に努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご利用者の関係性をみながら食席を決めており、常用に応じて適宜変更もしている。フロアにはソファや椅子を置いており、気の合う利用者や自由におしゃべりができるよう、職員が橋渡しをするなどの配慮も行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅から使い慣れた物を持参して頂き、住み慣れた環境に近づくように工夫している。必要に応じて畳や布団、ベッド等、身体状況に応じた環境作りに努めている。</p>	<p>ベッド・クローゼット・洗面台が備え付けてあり、全室眠りスキャン(マットレス上)を設置して利用者の状態がタブレットやパソコンで把握できるようにしている。寝具など使い慣れた物や思い出の品などを自由に持ち込んで動線を確保して配置し、状態変化に応じて家具やベッド、ポータブルトイレ、車椅子の位置などを都度検討して、安全に過ごせる環境づくりを心掛けている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室には名前の書かれた表札を掛けており、自らの暮らす場所、プライベートな空間であると解るように環境を整えている。居室内には椅子やソファを設置し安全かつ安心して生活が出来るように工夫している。</p>	/	/